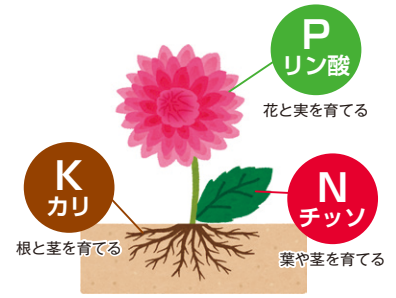


園芸課  
小棚木 佑亮

# 肥料成分と役割 をご紹介します!!



雪融けが進み、春が近づいております。  
今回は肥料の成分がどのような役割をしているか  
紹介いたしますので農作物を育てる参考にしてくだ  
さい。

## 「チッソ(N)」

作物の生育と収量に最も大きくかわる要素で特に茎葉を伸長させ葉色を濃くします。このことから「葉肥」と呼ばれます。しかし過剰に与えると、軟弱に育ち病害虫の被害に遭いやすくなりかえって減収や品質の低下を招くことになります。葉や茎を食べる作物ではほかの野菜に比べ多く必要とします。

## 「リン酸(P)」

おもに開花や結実を促進する作用がある要素でこのことから「花肥」または「実肥」と呼ばれます。リン酸が欠乏すると開花・成熟が遅延し、茎や葉の割合に対して実の収量が少なくなるため果実を食べる果菜類では特に重要となっております。

## 「カリウム(K)」

カリウムは根の発育を促すため「根肥」と呼ばれています。カリウムは土にあればあるほど吸収してしまう性質がありますが、植物の要求量は窒素ほど多くはありません。根の伸長を促進するため大根などの根菜類では要求量が増える傾向にあります。

## 「カルシウム(石灰)(Ca)」

植物の正しい細胞分裂に作用し、特に根の先端の発育に欠かせない要素です。他にも植物の細胞膜を強くし、耐病性を高める作用があります。

## 「マグネシウム(苦土)(Mg)」

光合成に必要な葉緑素を構成する要素です。植物の体内で様々な酵素を活性化させ、他の成分から栄養を作ったり、吸収を助けたりします。

上記のほかに微量元素といわれる植物の体内にはあまり多くないですが、必要とされる要素があります。鉄(Fe)、マンガン(Mn)、ホウ素(B)等がこれに含まれます。

近年、長く作付している圃場では、植物が吸収しきれなかった分の肥料が蓄積されて過剰に残ってしまっていることがあります。

過剰に残った肥料分は根の肥料焼けや病害を助長するなかえって害を及ぼすことがあります。肥料は適切な量を施肥するようにしましょう。

## ■まとめ

肥料はたくさん入れたら良いというものではなく、作物によって吸収する量や成分が違います。「適切な成分を適切な量」、「適切なタイミング」で施肥することがおいしい野菜をたくさん収穫するための秘訣です。

また、肥料施肥につきまして相談等ございましたら、お近くの営農センターまでお問い合わせください。